

VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022 開催について



明治大学 名誉教授（工学博士）
（一社）セーフティグローバル推進機構 会長
（公財）鉄道総合技術研究所 会長
VZSJ2022 組織委員会（JOC） 委員長

向殿 政男 MUKAIDONO Masao

わが国の労働安全衛生の歴史において、1972（昭和47）年の「労働安全衛生法」の成立は、労働災害の削減に大きく貢献した。また、翌1973年に中央労働災害防止協会（中災防）の提唱で「ゼロ災運動」がスタートした。この「ゼロ災運動」は、その後、欧州のゼロ・アクシデント・フォーラム（Zero Accident Forum）活動に波及したとされ、それが発展した形で現在、世界的に展開されつつあるビジョン・ゼロ（VISION ZERO）につながっている。

未来安全構想と安全新潮流 VISION ZERO

業界・業種を超えた安全化に対する幅広いニーズに応える組織として、2016年に設立した（一社）セーフティグローバル推進機構（略称IGSAP：イグサップ）では、今後取り組むべき安全への課題とその方向性を明らかにするため、2017年に「未来安全構想」を発表した。この中では、その後若干の修正を行ったが、8つの提言（表1）を行っている。

一方、VISION ZEROは、2014年にドイツで開催された第20回世界労働安全

表1 「未来安全構想」8つの提言

- | |
|-------------------------|
| ①安全はトップダウンとボトムアップの両輪で推進 |
| ②安全はコストではなく投資 |
| ③安全衛生の要は人であり、その対象は人である |
| ④最新安全技術を追求する |
| ⑤リスクゼロは存在しない |
| ⑥安全は、国、企業、個人の全体で構築 |
| ⑦安全は技術、組織、人の総合的マネジメント |
| ⑧事故情報は社会で共有 |

衛生会議（World Congress on Safety and Health at Work）で採択され、その後、2017年9月にシンガポールで開催された第21回世界労働安全衛生会議で、ISSA（International Social Security Association：国際社会保障協会）が、職場における労働災害や職業性疾病をゼロにすることを目指す国際的な活動としてVISION ZEROキャンペーンを開始することを宣言した。

VISION ZEROは、Safety（安全）、Health（健康）、Well-being（ウェルビーイング）を3つの要素として、あらゆる産業の職場や労働現場を対象に、事故や疾病、職業病などを未然に防ぐことにより、人が身体的・精神的・社会的に“良好な状態”であるWell-beingを目標としている。また、このVISION ZERO

表2 7つのゴールデンルール

- ①リーダーシップをとり、安全衛生方針を示そう
- ②危険源を特定し、リスクをコントロールしよう
- ③対象に焦点を当てて対策を講じよう
- ④労働安全衛生マネジメントシステムを整備しよう
- ⑤機械・設備、作業場所の労働安全衛生を確保しよう
- ⑥従業員の資質を向上させ、能力を開発しよう
- ⑦人的資源に投資し、活動参加により安全衛生意識を高めよう

の目標を達成するために、7つのゴールデンルール（表2）が示されている。

「未来安全構想」の8つの提言とVISION ZEROの7つのゴールデンルールは、互いに独立して提言されたものであるが、目指すべき方向はほとんど一致していることに驚かされる。

VISION ZEROについて、日本では、2018年11月にIGSAPが主催した「Safety2.0 国際安全シンポジウム2018」に、当時のISSA事務総長であるHans-Horst Konkolewsky氏が来日した際、VISION ZEROのローンチ（発足）を行った。現在、世界的な大手企業を中心に15,000社以上がVISION ZEROキャンペーンに登録し、活動を行っている。

ビジョンゼロ・サミット 日本開催へ

2019年11月には、第1回VISION ZERO SUMMITが、フィンランドのヘルシンキで開催され、世界の労働安全衛生の専門家が参集する中で、日本からも、筆者も含めたIGSAP関係者をはじめ、中災防、(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、(一社)日本電気制御機器工業会等の団体の他、各企業から多くが参加し発表を行った。

この第1回VISION ZERO SUMMITで、VISION ZERO活動のグローバルな

連携と拡大の推進のための組織として、世界各国の労働安全衛生機関が参加し、ILO（国際労働機関）が事務局を担当するGlobal Coalition for Safety & Health at Workが設立された。その中にTask Group on Vision Zero at the Enterprise Level（TGVZ：企業レベルでのVision Zeroタスクグループ）が誕生し、このグループに、アジアを代表してIGSAPが参加することになった。

このときの日本の貢献やさまざまな取り組みに対して、世界が注目した。そしてTGVZから、第2回VISION ZERO SUMMITの日本での開催について強い要請があった。IGSAPではVISION ZERO SUMMITの日本での開催は、世界的な新潮流となっているVISION ZEROを日本に浸透させる絶好の機会であり、これにより、Safety、Health、Well-beingが日本に定着することは、社会的にも、また、企業にとっても大変有意義であると考えた。そこで、要請を受け入れ、Global Coalition for Safety & Health at Workのタスクグループと共に、第2回VISION ZERO SUMMIT（VZSJ2022）を日本で主催することとした。

VZSJ2022は、そのテーマを「ニューノーマルにおける安全、健康そしてウェルビーイング」とし、2022年5月11日（水）～13日（金）にWebでの開催を決定し、その準備を着々と進めている。

VZSJ2022のホームページ（<https://japan.visionzerosummits.com/ja>）も、日本語を含めて既に開設され、セッションの内容や講演者の紹介を行っている。

人・技術・マネジメント・ルール 形成の下で

今回開催されるVZSJ2022は、16の

表3 VZSJ2022のセッションタイトル

VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022		2022年5月11日(水)～13日(金) Web開催 テーマ：ニューノーマルにおける安全、健康そしてウェルビーイング	
セッションタイトル	第1日目 5月11日(水)	ROOM C ROOM B ROOM H ROOM K ROOM M	<ul style="list-style-type: none"> ●企業におけるビジョン・ゼロの実施 =ビジョンからリアリティへ= ●グローバルなサプライチェーンをより安全に ●モビリティ・自動車・無人搬送車 (AGV) ●建設と OSH 安全性と生産性の向上 ●感染症対策の経験から学んだ健康・衛生の在り方
	第2日目 5月12日(木)	ROOM D ROOM A ROOM Q ROOM F ROOM J ROOM N	<ul style="list-style-type: none"> ●未来のビジネスリーダー =より健全なパフォーマンスと生産性= ●前向き先行指標 (PLI) の活用がビジョン・ゼロを推進する ●ヒューマンファクター ●ロボット工学と協調安全 ●製造業における現場での安全衛生活動 ●ウェルビーイングと SDGs (ESG)
	第3日目 5月13日(金)	ROOM E ROOM I ROOM G ROOM L ROOM R	<ul style="list-style-type: none"> ●教育、オンライン学習、資格認定を通じた労働安全衛生 (OSH) 能力の向上 ●安全、健康とウェルビーイングのための国際標準 ●AI/ICT とデジタル化 ●アグリカルチャー (農業) における労働安全衛生 (OSH) 文化の構築 ●国家戦略としてのビジョン・ゼロの推進

セッションに分かれ、1セッションに10人を超える総勢160人以上の労働安全衛生や安全技術などに関する世界的に著名な専門家、グローバル企業のリーダーが登壇する。

表3に示した16のセッションの構成は、VISION ZEROを実践するためには人・技術・マネジメント・ルール形成の各領域でのアプローチ(図)が必要との考えによるものである。人の領域では、人の労働安全衛生に対する意識を高め、実践能力の向上が必要であり、また、不慮の事故を防ぐためには人間の行動分析に基づいた対策が欠かせない。技術面では、自動車や無人搬送車の安全や、AIやICTを活用した協調安全の活用が重要となっている。また、企業として、安全、健康、さらにはWell-beingの向上を図っていくためには、トップの強いリーダーシップと、それを支えるマネジメントなどの仕組みが不可欠である。一方、これらの取り組みには、世界共通の基準やルール形成が必要となってくる。

あらゆる産業の職場や労働現場におい



図 人・技術・マネジメント・ルール形成のアプローチ

て、安全を確保し、人が身体的・精神的に良好で、Well-beingをさらに向上させるためのVISION ZEROの世界的な流れは確実なものとして止まることはないだろう。

VISION ZEROの3要素である安全、健康、ウェルビーイングの実践に対する経験の共有、最新のリサーチ結果の発表と考察、新たなアイデアの公開など、多彩なプログラムが準備されているVZSJ2022に、ぜひ参加され、労働安全衛生の世界的な新潮流への理解を深めていただきたい。